



▲輪島の風景を詠んだページ(句集「病葉」)

## 逆境を乗り越え、 輝き続ける創作の旅

野村 京子さん

心臓弁膜症という持病と二度の脳梗塞を乗り越え、俳句と写真を通じた創作の道を歩む野村京子さん(81歳・東新町)。傘寿記念として出版された句集『病葉』には、彼女の旅の記憶と、創作への情熱が込められています。

「小さい頃から体が弱く、小学校の体育の時間は見学組。結婚後も、二度の流産を乗り越えて娘を授かりました」と健康への不安が絶えなかった人生を振り返る野村さん。50歳を過ぎて心臓弁膜症を発症し、手術後のリハビリを終える頃、ボランティア活動をきっかけに写真と出会います。生来の旅好きが高じ、ベトナムのハロン湾や富良野のラベンダーなど国内外の美しい風景を写真に収めてきました。

しかし古希を迎えた後、脳梗塞を二度経験。後遺症は残りませんでした。が、この頃から体の衰えによる腰の曲がりや次第に進行します。一時は歩行も困難となり、大好きだった旅行に出掛けることも難しくなりました。外出がままならない生活の中で、新たな人生の希望となったのが俳句でした。76歳の時に始めた通信講座をきっかけに、俳句の世界に魅了された野村さん。17文字の短い言葉で、日々の暮らしや旅先の情景を表現します。「目を閉じると、かつて訪れた風景が浮か

できます。俳句に出会えたおかげで、頭の中で旅を続けることができます」と語る彼女の顔には、穏やかな笑みが浮かびます。

『病葉』には、能登半島地震で被災した石川県輪島市の写真も収められています。かつて訪れた思い出深い地に思いを寄せ、「現地を訪れることはできませんが、自分の作品を通じて少しでもお役に立てれば」と句集の売上金を寄付することを決めました。

現在、野村さんは第二句集の制作を目標に日々俳句を詠んでいます。「古い先短いからこそ、できる限り多くの良い句を作りたい」と話す彼女の創作意欲は衰えることを知りません。81歳を迎えた現在も、創作の道をひたむきに歩み続ける野村さん。「好奇心を忘れず、趣味を持ち続けてください。成長や上達の喜びを知っていれば何歳になっても、楽しく生きられます」と年齢や障がいにとらわれることなく、情熱を持って人生を豊かにする方法を私たちに教えてくれます。



▲旅の思い出を振り返る野村さん

**cover** 有機農業で生産したコメ[おおぶニック学校給食米]を提供した大府小学校の給食現場に潜入しました。全員にコメを配り終わった後、余ったコメをおかわりしようと大行列ができる場面も見られました。表紙を通じて、こどもたちの笑顔が生産者の皆さまに届きますように。

